

この九月号の編集の仕事にかかっている最中に、ちょうどテレビで「ブラハの春音楽祭」の録画が放映されていました。オーストリアの「ザルツブルグ音楽祭」と並び、ヨーロッパ最大の音楽祭のひとつで、毎年、チェコスロヴァキアの生んだ偉大な国民的作曲家スメタナの命日に始まります。

今年、自由化後、42年ぶりに亡命先から祖国にもどった、今世紀を代表する指揮者、ラファエル・クーベリックを迎えての音楽祭となりました。ファンファーレで迎えたハベル新大統領夫妻の着席の後、チェコとスロヴァキアの二つの民族音楽をつなげたようなチェコスロヴァキア国歌の演奏、そしてスメタナの「わが祖国」へとつづきます。

私は有名な「交響詩モルダウ」の曲しか聴いたことがないので、今回、はじめに全曲を聴きました。力強く、時にはやさしく、軽やかに、ボヘミアの自然が目にうかぶような音楽、そしてなりやまぬ

拍手……。クーベリックは、「この感動をもっと多くの人々とわかち合いたい」と、後日、ブラハ市旧市街広場で数万人の聴衆に囲まれて「わが祖国」の再演を行ったということです。

大槻先生の「チェコ便り」での知識に加えて、自由化の革命、自由選挙の報道など、この半年で、チェコスロヴァキアという国に対する私の認識は大きく広がりました。教育、音楽、建築（広島島の原爆ドームとなっている広島産業奨励館を設計したのは、チェコのヤン・レルツという人です）、国民性等々。今までは、まだ見ぬ東欧の一国にすぎなかったチェコスロヴァキアという国が身近に感じられるようになったと共に、この国の人々の幅の広さに感激しています。

それにしても、社会主義という体制の中で、大切に守られ伝えられてきた文化が、自由化となった経済の圧力によって、損なわれることのないことを願わずにはいられません。

(K)

## 幼児の教育

第八十九巻 第九号

(一九九〇年九月号)

定価四一〇円(本体三九八円)

平成二年九月一日 発行

編集兼発行人 本田和子

発行所 日本幼稚園協会

東京都文京区大塚二一一一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

東京都港区三田五一一二一一

発売所 株式会社フレールベル館

東京都千代田区神田小川町三一

振替口座 東京九一一九六四〇

電話 〇三一二九二一七七八一

●本誌購読のご注文は、発売所フレールベル館にお願いいたします。

●万一、落丁・乱丁などがございましたら、おとりかえいたします。